

柴巻での龍馬の伝承



▲池

龍馬が柴巻に滞在した折りには、屋敷にある小さな池にたらいを浮かべ、近所の子供たちをそこに入れて水遊びに興じたという話があり、ある時には北辰一刀流の腕前を披露するた
めに、庭に飛び交っている螢を刀で切ったところ、螢がばらば
らになって飛び散り、そこで北斗七星の形となって浮かんだ
という。これはあまりにも出来すぎた話になっているが、こ
のような誇張された逸話が言い伝えとして残っているとい
ろが龍馬らしい。

龍馬と良助が酒を飲みながら、碁遊びに夢中になっていた
た折、庭に干してあった粕が夕立の雨にいくら濡れていても、
そのうち女房が気がついてしまい込むであろうと平気だった
というから、良助もまた豪放な人物だったと思われる。

(広谷喜十郎)



文政8年(1825)の銘の入った
碁盤と復元工事で発見された
碁石

碁盤は県立坂本龍馬記念館
寄託品



資料館のご案内

開館日 高知市観光企画課の
ホームページを御確認ください

開館時間 午前10時～午後5時

見学料 無料(敷地内の禁煙にご協力下さい)

所在地 高知市柴巻381番地

※駐車場はありません。

問合せ先 高知市観光企画課
電話 088-823-9457

高知市民権・文化財課
電話 088-832-7277

交通 高知市立龍馬の生まれたまち記念館
(上町二丁目)からタクシーで約20分

▼柴巻から高知市街・太平洋を望む



高知市 田中良助旧邸資料館

龍馬青春の地・柴巻



良助旧邸の建物及び石垣について



田中良助



坂本龍馬

今回の復元工事で、建築時の大工さんの書いた墨書が軒桁の仕口から見つかりました。この墨書には、古い年代と新しい年代の二つの年代が記されています。

古い墨書 文久二年戊之正月吉日 大工 佐吉作 松印

新しい墨書 明治式拾壹子年旧九月廿日 遠(建)替 柴巻村 永野弥之助作

復元時の調査や家人の聞き取りから、文久二年(一八六二)に建てられた屋敷は、現在の建物の西の畑にありました。建物の形式は、土佐の山間部によくある民家型であったと思われます。古い墨書には「文久二年正月」と日付が明確に記されていないことから、文久元年に棟上げがおこなわれ、文久二年の正月は新しい建物で新年を迎えたいとの良助の願いが込められていたと推測されます。

建物に使われている再々利用の古材の多さから、龍馬が幼いころ手に触れた家も同じような形式だったと思われます。また文久元年一〇月一四日に龍馬が良助から金二両を借用した時は、完全な形で完成はしていません、この屋敷で借用証文を取り交わされ、龍馬が寝泊まりしたことでしょう。

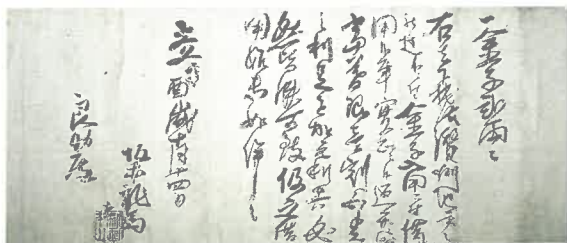
明治一九年に大きな台風が高知県を襲い、良助邸も被害にあったようで、明治二年(一八八八)風当りの少ない現在地に移築されたことが新しい墨書から推測されます。このとき建物は土地の形にあわせて縮小され、屋敷の南側には風除けのための石垣が西の屋敷の石を一部転用し、新しく築かれました。

この墨書の発見により、田中良助旧邸は一四二年以上を経ていることが明確となりました。その上に、坂本龍馬との深いかわりからも貴重な建築物といえます。(上田堯世)



墨書

龍馬の借用証文



金子二両の借用証文

県立歴史民俗資料館 寄託品

龍馬が書いた借用証文は不思議な借用証文です。なぜかという、青年龍馬に対して担保なしに、しかも一人の保証人もつけずに、良助が二両という大金を貸しているからです。これが田中家の襖の下張りから、偶然にみつかった時には真偽の論議がおこったほどでした。

勢が大きく変化しているありさまを身を持って見ておきたいという強い衝動があったに違いありません。それだからこそ、これらのことが引き金となり、約一カ月後文久二年(一八六二)年三月二四日に沢村惣之丞とともに土佐を脱藩しました。

丸亀に立出の前に、龍馬は柴巻で数日間を過ごしています。これは、単に金策にいっただけでなく、良助に政治的に決断しようとしている思いを打ちあけていたのではないのでしょうか。良助も借用証文を龍馬の形見のつもりで保存していたので、坂本家へ返済の催促をしませんでした。龍馬は良助と八畳岩の上で酒を酌み交わしながら、日本の行く末などを語りあつて、日本の表舞台へ出る覚悟を披瀝していたかも知れません。龍馬二七歳、良助四二歳のときでした。

(広谷喜一郎)

田中良助旧邸と坂本龍馬に関する略年譜

年号 西暦 出来事

天保6年	1835	坂本龍馬誕生(11/15)
嘉永6年	1853	剣術修行のため江戸へ(3/17)
安政元年	1854	江戸より帰国(6/23)
2年	1855	父、八平没す(12/4)
3年	1856	江戸再遊のため発つ(8/20)
5年	1858	修行を終え帰国(9/6)
文久元年	1861	丸亀から長州へ発つ(10/11)
2年	1862	良助邸から金二両を借用(10/14)
慶応3年	1867	土佐に帰国(2/29)
		脱藩する(3/24)
		脱藩の罪が許される(3月)
		須崎入港(8/2)
		出港(8/12)
		浦戸入港(9/24)
		出港(10/1)
明治10年	1877	京都に帰る(11/5)
19年	1885	暗殺される(11/15)
21年	1888	田中良助没(7/25)
		高知県下にて台鳳被書(9/10)
		良助邸を現在地に移築(9/20)
平成12年	2000	田中良助邸調査報告書「龍馬、柴巻にあそび」刊行(9月)
平成14年	2002	良助旧邸を市史跡指定(11/15)
15年	2003	田中良助旧邸修復等検討委員会が発足する(11/18)
16年	2004	旧邸建物が田中家から高知市に寄附される(1/8)
		設計完了、復元工事に着工(3/23)
		落成式典(11/6)
		復元記念展(11/6-11/30)

●黒色の文字/龍馬のこと
●茶色の文字/田中家のこと



藤本 知子 画

しかし、その後発見された田中家の文書の中に、借用書の下書きが出てきて話題になりました。これは良助が下書きを龍馬に示して、これを参考に書いて下さいと言っているようで、担保物件や保証人の箇所がないことから、はじめから良助が龍馬に要求していなかったことがわかります。それだけ両人の間柄は、普段から親しい関係であったといえます。

金二両の使い道については、龍馬は表向きは讃州丸亀方面に剣術視察と称して旅行することになっていましたが、実は土佐勤王党首領の武市半平太の密命を受けて長州から大阪方面まで足を伸ばすことにしており、その旅費の足しに充てたのです。当時の長州は藩の方針として公武合体論をとり、急進的な尊王攘夷派を抑えていましたが、それに対して長州の久坂玄瑞ら勤王志士たちは自分たちの主張を押し進めようとの決意を持っていた。そんな長州の志士の熱情に接した龍馬は、大きな影響を受けたと思われるし、わざわざ大阪方面まで足を伸ばしたのは、国内情